

令和7年9月14日（日）

岩倉市こどもまんなかアクション推進シンポジウム

パネルディスカッション

司会者

それでは、ただいまよりパネルディスカッションへと進めさせていただきます。早速6名のパネリストの皆さんをご紹介します。まずはじめに、先ほどトークショーでお話をいただきました小林よしひささんです。

小林 よしひさ

よろしくお願いします。

司会者

続きまして、有志でパネリストに応募をしていただきました、市内中学生の生徒の皆さんです。生徒の皆さんには後ほど自己紹介をしていただきますので、こちらでの紹介は割愛させていただきます。そして、コーディネーターは、岩倉市教育委員会の野木森教育長に務めていただきます。

野木森 教育長

よろしくお願いします。

司会者

それでは、ここからの進行は野木森教育長にお願いをしてまいりましょう。よろしくお願いします。

野木森 教育長

はい、皆様、改めましてこんにちは。たくさん来ていただいてありがとうございます。ただいま紹介いただきました野木森です。先ほどは、小林さんの大変素敵なお話を聞かせていただきました。ありがとうございます。ただ、なかなか中身が難しいなと思って。

小林 よしひさ

そうですね。難しい質問も多かったので、大変でした。

野木森 教育長

そもそも今日のテーマが「子どものための子育てを考える会」という副題がついているんですけど、本当に子育てって難しいなって自分の孫を見ながらも思っているところなんです。今、前半はよしお兄さんのお話と、それから市のお話がありました。それを、今度は中学生目線で見えて、『自分たちが育ってきた環境をどう大人に支えてもらったらいいのかな』というようなことを、『子どものための子育てって何だろうか』というようなことをね、中学生の皆さんと一緒に探っていけたらいいなと思っています。今日ですね、

中学生の5人の人たちは、「こういう会があるけれど出てくれない？」と言ったら、自分で手を挙げて来てくれた人です。特に中学校3年生がここに3人いるんですけど、今テスト期間でね、受験生でね、大変な時にも関わらず来てくれました。そしてね、今日は残念ながらね、実は6人の手を挙げてくれた子がいるんです。1人だけ残念ながら体調不良でお休みをしています。あと、実はシナリオは全くありません。打ち合わせも、全員揃ってやったのはオンラインで1回だけです。だから、本当にその場で考えて、中学生が生の声を聞かせてくれますので、その場でテーマを探りながら進めていきたいと思います。ですので、皆さま、そんなことだということで聞いていただけるとありがたいと思います。それじゃあですね。中学生の皆さん、早速なんですけど、最初ね、今よしお兄さんのね、お話とっても感動私はしたんですが、きつとしたところあると思うんだよね。どこに感動したのかとか、それから、もしもね、もうちょっとここ聞いてみたいなとかいうことがあったら、お話をしてもらいたいと思うんですね。最初にちょっと自分の自己紹介を簡単にしてから、今のテーマについて話してください。手前の●●さんからお願いします。

中学生A

こんにちは、岩倉市立南部中学校から来た3年生の●●●●です。僕はよしお兄さんの話を聞いて、人生の引き出しをいっぱい作るっていうのにすごい共感できて、確かに最近親にも言われまして、「やりたいことをやって引き出しを作ればいいよ」って。でも、そこでもう一つ聞きたいこともありまして。引き出しを作るとも親に言われたんですけど、どうしてもそれは、挑戦するということ。やはり自分は、失敗とかが怖くて、期待に応えられなかったりとか、思ったように結果が出せなかったりとかがすごく怖くて。そんな時に、失敗を恐れないで挑戦するのってどうしたらできるかっていうのを今日聞きたいと思いました。

小林 よしひさ

はい、引き出しの多さという話をしたと思うんですけども、そもそも、まずその考えが根付いたきっかけというのが、大学の体操部の部長先生、一番トップの方なんですけども、言われた言葉で、「体操うまくなりたいなら体操やるな」って言われて。「はい？」って、「どういうこと？」って思ったんですけども。でもその先生は、もちろん練習はするんですけど、例えば「海外から有名なダンスカンパニーの人が来て、その招待券が今3枚あります」と。「これ見たい人」って言われて、私はその話を聞いてたので、どんな時もそういう時には手を挙げて「行きたいです」って言ったりとか、あとはワークショップがあったりとか、あと、自分でちょっとバレエを習いに行ってみたりとか、色んなことをしていて。何か大きな挑戦をして成功しなきゃいけないということではなくて。体操というものがあっても、実際他のことに一体何に繋がるかわからないので、色んなところに、これが全く興味がなかったとしても、行ってみて。それが帰ってきて「つまらなかったな」って思っても、それでもいいと思っていて。それ自体がつまらないっていう経験ができたっていうことが、もう一つの自分の引き出しになるというふうに思っていて。下手したら、行ったところで「このものの、ここがすごく良かった」という長所さえ見つけられたら、さらにもっといい引き出しが増えていくっていう感覚なので、何か新しいものにいざチャレンジをして、それをやっていこうということではないと思います。なので、もっと気楽に色んなことに足を運ぶ、経験してみる、今だとYouTubeだったりTikTokだとか動画で見ることできるし、色んな方法で経験とか引き出しを増やす方法があると思うので、そういうところからやっていくといいかなと思います。

野木森 教育長

いきなり深い質問ありがとうございます。頷きながら聞いていて勉強になりましたね。気軽に挑戦してみるといいことだと思います。じゃあ次、どうぞ。

中学生B

こんにちは。同じく南部中学校3年の●●●●です。よろしくお願いします。私は、先ほどの小林よしひささんの話を聞いていて、『目標に進むだけじゃなくて、回り道が大切』みたいな話をされていたと思うんですけど、自分自身、今好きなことが多くて、とかやりたいことが多くて、あれやりたいこれやりたいが多くて。でも、これって将来に進むために確実にこれというものがなくて、いいのかなって迷いがあつたんですけど、それも一つの経験で、いつかそれが自分の目標とか夢にたどり着くんだなと思って、自分の将来がちょっと見えてきたなって感じがしました。ありがとうございます。

野木森 教育長

はい、ありがとう。次どうぞ。

中学生C

こんにちは。岩倉市立南部中学校3年生の●●●●です。よろしくお願いします。僕がよしお兄さんのトークショーを聞いてて思ったことは、新しい挑戦とか仕事を自分を出しながらやって、14年間あつという間っておっしゃってたんですけど、自分を出すにはどうしたらいいのでしょうか。僕、ちょっと今も、本当緊張してるんですよ。緊張してるんで、どうやったら大舞台とかで緊張しないでいられるのかが、ちょっと知りたいです。

小林 よしひさ

今でも十分立派にお話できていると思いますけれど、私も先ほどちらっと言ったんですが、人の前に立つよりは、裏側の仕事をするような、コミュ障なタイプの人間だったんですけども。もちろん最初は色んな緊張もあって、成功できるかどうかっていうドキドキもあつたんですが、これは SMAP の木村拓也さんの言っていた言葉で、『緊張はした方がいい』っていう。なんででしょう。それっていうのは、物事を色んな準備をしておく、それが「うまくいくな」っていう感覚になるから、緊張できるってことは、色んな準備をしてきたんだっていう感覚なんだ、だから緊張したってことは、いっぱい練習してきた、いっぱい準備してきたから大丈夫だ、と思えると。けど、何も準備してないと、何もなければ緊張しないんだ、それは良くないと。だったら、緊張してる方がいいんじゃないか、緊張できた時はいいことなんじゃないか、っていう言葉を聞いて、じゃあ自分を出そう、緊張するけど出そう、っていう時には、やはり何か自分の中で少しずつ準備をしておく。例えば今ね、ちゃんとノートに物を書いて準備をしておくっていうことはすごくいいことだなと思うので、そういった準備を怠らないでいくことによって、自分を出すという方法の一つの手法になるんじゃないかなと思っています。

野木森 教育長

はい、ありがとうございました。

中学生D

こんにちは、岩倉南部中学校2年生の●●●●です。よろしくお願いします。先ほどよしお兄さんの話聞いてて、子ども条例の一つに『自分らしく生きる』というのがあって、それを身体とか行動とかで全て表しているなと思ってたんですけど、子どもの育て方だとか自分の考え方だとか。今もずっと目が合ってる、私の自分らしさを引き出してくれるんじゃないかなと思ってます。私自身、●●さんと一緒に、好きなもの多くて、自分らしさっていうのが分かんなくなってきたんですけど、それをどうしたらいいのかなと思ってます。

小林 よしひさ

好きなものが多いって、とても贅沢なことかなと思っています。例えば、こういった質問コーナーになってくると、好きなものが見つからないという人の方が多いですよ。なので、まず、好きなものが多いっていうことは、自分の中の自分の好きなことをちゃんと理解できてるってことなので、自分らしさを持てていると思います。でも、こうなんか、「自分はこうです」「自分らしいです、それは」って言われると、ちょっとね。難しいけども。それは周りが多分考えて評価してくれることだから、自分が楽しいと思えることを見つけて、それをたくさんあったっていいと思うので、やり続けていること自体が、ちゃんと自分の個性を持って生きていると思いますので、そんなに深く考えなくていいと思います。

中学生D

ありがとうございます。

中学生E

こんにちは、岩倉市立岩倉中学校1年の●●●●です。私は小林さんの話を聞いて、人生の色々な選択で、決めること、どういう決め方をするかで人生が全然違うっていうのがすごいいいと思いました。私は●●さんとかとは違って、将来絶対これになりたいっていうのがあって、小林さんの話を聞いてたら、それだけを歩くんじゃなくて、他に遠回りをしてみたいしてみてもいいんじゃないかなっていうのが分かりました。それで、質問なんですけど、子どもの時に人見知りって言ってたんですけど、なんでテレビではあんなに元気で明るくいれるんですか？

小林 よしひさ

私が聞きたいぐらいですね。でも、これも一つの経験なのかなと思っていて。もちろんうまくいかないこともいっぱいあって、人見知りではあったんですけども、色々な経験をする機会があったときに、必ずちょっとここは自分の中でも努力をしていて、一歩踏み出してみるっていうことを繰り返して。例えば、大学入ったときには、部活を運営するための総務委員会っていうのが存在して、「その委員長をやりますか」って。みんな嫌がるけど、「やります。」と。4年生になった時に、「主将誰かやってくれ」「小林さんやってくれ」「はいやります。」と。「ダンスの発表会あるけど、見に行きたいか」「行きます」と。っていう、とりあえず飛び込んでいうことをやって。その場所に行った時に、もちろん会話がうまくいかないこととか、すごく恥ずかしい経験をしたっていうのもあったんだけど、逆にうまくいく経験っていうのもすごくいっぱいあったので、それを繰り返していく上で、テレビの前で出た時も、最初はもう、体中震えながらやってましたけど、いつの日か、人って慣れは怖いですね、慣れてきたっていうのもありますので、

何かその、一步踏み出す勇気っていうのも、もしかしたら大事になってくるんじゃないかなと思います。

中学生E

ありがとうございます。

野木森 教育長

私が司会進行するまでもなく、非常に本質的な質問がね、もう中学生からどんどん出てて、すごい中学生だなと思ってますが、今ね、多分将来の夢、やってみたいことをみんな持ってて、それを叶えるために、今大切だと思うことが色々気づけたんじゃないかと思うんですね。でもね、それにはね、なんとなくやっぱりね、周りからの応援が必要だと思うんです。岩倉市もね、子ども未来応援のまちになりたいんですよ。そこで、みなさんね、これまでに、「誰かに応援されてるな」と感じたことがありますか？ あったら具体的に知らせてほしいですけど、どうかな。はい、●●さん、どうぞ。

中学生A

自分は、最近、高校の進路先について応援されたことがありまして。自分は、まずはとある高校に行きたかったんですけど、その高校がちょっとレベルが高くて。頑張ればいけるんですけど、頑張るっていうのは自分には難しくて。で、違う高校に高校見学をしに行ったときに、「この高校もいいな」と思って。レベルは少し落ちるんですけど、やはりその分、なんて言うんでしょう。生徒間の仲の良さとか、自由さとかがすごい楽しそうで。でも、親にはずっと、その高校見学する前に「行きたい」って言ってた高校に行くって言って、そのために、塾の費用とかもいっぱい出してくれたので。その、やっぱり言うのが怖くて。8月の中盤ぐらい、夏休み途中ぐらいで親に打ち明けたところ、さらっと「行けばいいんじゃない」って言って。本当に、さっき自分の思ってた「怖いな」とか、「期待されるのが怖いな」とかそういうのを気にせずに、さらっと「行ってもいいんじゃない」「好きなように生きて」って。そうやって応援されたのが嬉しかったです。

野木森 教育長

さっき剣道を続けるときに、小林さんのお母さんがさらっと「行ってらっしゃい」って言ったのと似てる感じがするんですが。

小林 よしひさ

そうですね。私も高校の受験のときに、高校に行くのか専門学校に行くのか悩んだことがあって。というのも、どうせ将来働くんだったら、専門的なものを学んだ方が、早めに行った方がいいんじゃないかなと思っていて。でも、それを逆に先生は「いや、今は決めることじゃないんじゃない？ もっともっと長く考えたらいいんじゃない？」っていう逆のパターンのことを言ってもらって。で、考えた末に高校を選んで、まさにその、親に言った時も「自由にしたら」って言われたっていう経験もあって。やはりこの、自分で悩んだことってというのが、また打ち明けるっていう怖さもあるけれども、やはり自分の中の周りには助けてくれる大人っていうのもいっぱいいるんだなっていうのを、今聞いて改めて思いました。ありがとうございます。

野木森 教育長

相談してよかったということですね。さっき●●さん手を挙げてたかな？はい、どうぞ。

中学生B

「今決めるべきじゃないんじゃない？」っていうのがあったんですけど、私、中学校入った時から「留学に行きたい」というのを親に言っていて。めちゃめちゃ高校でそういう外国語の高校へ行って、専門じゃないんですけど、学科で行って。で、「留学をしたい、めっちゃしたい」というのをずっと言っていたんですけど、「高校って、高校でできることもあるし、本当に今じゃないんじゃない？」って親から言われて。「大学でもできるし、これから大人で、自分でどこにでも行けるよ」というのを言われて、「確かにそうだな」と思えて。そしたら今、例えば今、私は歌とかが好きなんですけど、今やりたいこと、今できることをもっとできたらいいんじゃない？高校でやれたらいいんじゃない？っていうので、そういう今を応援してくれ、また自分で後からできることも応援してくれたのが、最近、親がずっとそれを応援して、私を応援してくれていて、ありがたいなとよく感じております。

野木森 教育長

みんなやっぱり、お父さん、お母さんってとても大切な存在だっていうことが分かりますね。他の方どうですかね。はい、どうぞ。●●さん。

中学生C

僕は、野球部に所属してたんですけど、どっちかという実力ない方で、本当に練習してたんですけど、ある試合でチャンスの場面で回ってきて、本当にプレッシャーも感じて、足ブルブルで打席に立ってたんですけど、よしお兄さんが言った通り、一回落ち着くってというのがあって。落ち着いたら、保護者の方、応援してくれる方が「頑張れ」と言ってくれたので、落ち着いて打席に立つことができました。

野木森 教育長

知っている近所の人たちがみんな言ってくれたんですね。ありがとうございます。●●さんはありますか。はい、どうぞ。

中学生D

今までの方は、全員お母さんとかお父さんとか両親の話で応援されてるって話だったんですけど、自分の親がフィリピンの人で、そこまで日本の文化、生徒会だとかそういうのが分かんなくて、自分が「生徒会になりたい」と言った時に、「それ何？」とか言って、応援ということはされなかったのが、悲しかったんですけど、先生方に話したときに、「すごいと思うよ」、「応援してるよ」と言われて、すごい、「岩倉って優しい人たちなんだな」みたいな、応援された気分になりました。

野木森 教育長

ありがとうございます。ちょっと後で市長さんに感想を聞いてみたくなりましたね。それじゃあ●●さんありますか？はい。どうぞ。

中学生E

私も●●さんと同じで部活の話なんですけど、今1年生で、4月に体験入部とかで入って、そのままソフトボール部に入ったんですけど、そこで初めての試合で出るようになった時に不安そうな顔をしていたら、先輩が「あなたならできるよ」という言葉をかけてくれて、とても安心したし、信頼してくれてるんだなって思って、とっても、それで応援されました。

野木森 教育長

自分が応援されてることを自覚して感謝してるっていうね。この中学生の素晴らしさ、いかがですか、よしお兄さん。

小林 よしひさ

『応援されている経験がありますか』というところから、しっかりと自分の経験を基づいて、その時の感謝であるという気持ちがパツと出てくる環境下にいられるというのはすごくありがたいことだなと感じましたし、逆に、そういった環境を、親であり周りの大人たちが作っていくことも大事なんだなと同時に考えられましたね。

野木森 教育長

ありがとうございます。今日ですね、『子ども未来応援のまち』ということで、一番大事にしなきゃいけないのが子どもの意見表明権ということですね。一人一人の意見に耳を傾けるということで、今中学生に集まってもらってるんですけど。中学生の皆さんね、自分の意見を聞いてもらってるっていう感覚はありますか？今までどうですか。そんな経験あったら話してもらいたいんですが。すぐみんな手を挙げるね。すごいね。●●さん、どうぞ。

中学生A

最近というか、本当にありまして。自分、前までこの岩倉市の制服を作る『制服語り場』というところに入ってまして。そこで色んな中学校の方、例えば小学生でも、岩倉中学校でも、岩倉南部中学校でも、色んな人がチームスに集まって意見を出し合うんです、制服について。例えば、何でしょう、「制服の半ズボンがあるか」とか。色んな意見を出し合って、僕もちょっと意見を出して。その時の話が、「半ズボンはいるかどうか」という話で、圧倒的大多数でいないという意見が来た中で、僕がそのちょっと理由とかもつけて「いるんじゃないか」みたいな発言をしたんですよ。そしたらそこで、野木森さんが反応してくださって。少数意見ですけど、反応してくれたっていうのがすごい嬉しかったっていうのは、語り場で覚えています。

野木森 教育長

司会者が褒められてどうするんでしょうか。はい、ありがとうございます。今、2年生の子と1年生の子が着ている、ちょっと立ってみて、その制服は、こちらに座っている3年生の子たちが一生懸命考えてくれた制服なんですね。ということで紹介しておきます。ありがとうございました。他にどうですか、自分たちの意見大事にされているなって思うような経験。●●さんどうぞ。

中学生D

子ども条例だったかな？児童館とかに、中高生の専用部屋っていうのが新しくできたじゃないですか。それを、自分も前から児童館の先生に言っていた記憶があるんです。友達と勉強会をするときに、児童館だからしょうがないんですけど、ちっちゃい子たちが「何してるの」とか、勉強道具奪ってきたりとかするから、先生に、「中学校とか、専用部屋とかないんですか」って言ったんです。それが今実現されていて、「意見聞かれてるんだな」って実感しました。

野木森 教育長

岩倉市いいことやってますね。ありがとうございます。どうぞ●●さん。

中学生E

私も児童館っていう観点で同じなんですけど、いつもドッジボールばかりで、「私たちフリスビーやりたいな」って言ったら、先生が「いいんじゃない」って感じでやらせてくれて、そこから低学年の子もやるようになって、自分たちが言った意見から他の小さな子たちも楽しめるようになって、それが嬉しかったし、児童館の先生が「いいよ」って言ってくれたのがとっても嬉しかったです。

野木森 教育長

ありがとうございます。じゃああとの2人はどう？はい、●●さん。

中学生B

私は、実は生徒会に入っているんですけど、生徒会に入っていることは、本当に学校の先生方が、全部「やりたい」って言ったらほとんどを実現させてくれるんです。もちろん、自分たちで最初からどのようにやってどのように行おうかは全て計画をして、『こういう風にしたい』っていうのを表した上で先生に出して、そこから先生とまた話し合っ決めていくんですけど、実際に南部中学校で行ったのは、私が考えた企画ですと、『発展途上国の子どもたちのために支援をしたい』っていう意味で、ペットボトルキャップを回収して、それをお金にして、その集まったお金を寄付するっていう計画を立てて、実際、先週に3日間行って、ペットボトルキャップが3日間で3袋以上集まりまして、それを1学期にも行っているんで、計6袋ぐらい集まっていて、それは実際に寄付されるので、「やってよかったな」という実感もあるし、先生たちが行ってくれないと、決して自分たちだけでできるわけでもないんで、そういうのは意見が反映されているなとよく思います。

野木森 教育長

何でもやらせてくれるって思えるから意見が出せるんだよね。そうなんだろうね。●●さんは何かありますか。

中学生C

僕はですね、4人の方とは違って家族のことなんですけど、習い事とかで、最初水泳を習ってたんですけど、今度は「英会話やらない？」ってアピタとかで勧誘してて、「英会話やりたい」って言ったらすぐ水泳やめて英会話やらせてくれたり、今度は「塾習いたい」って言ったら塾習わせてくれたりとか、本当に家族には感謝しています。

野木森 教育長

引き出しを広げることにつながりますよね。ありがとうございます。しっかりした意見ばかり言ってくれて本当にありがとう。みんな色々今応援してくれる環境、それから話を聞いてくれる環境って言ってくれたことを見ると、もう岩倉市は子どもまんなか社会って言うっていい？でも、もっともっと子ども応援社会にするために、何かアイデアありますか？ちょっと難しい？どうぞ、●●さん。

中学生A

思ったことは、やっぱり、ちょっと子どもの政策とかいっぱいやってると思うんですけど、さっき、何でしたっけ、すぐーるの中に入ってるい〜わくんのなんか。あれがあんまりうちの学校とかでは知られてなくて。だから、「こういうイベントがあるよ」とか、有志の夏祭りだとか、「みのりの里のボランティアで企画があるよ」みたいな、あと水辺まつとか。あるんですけど、知らない人がやっぱり多くて。だからやっぱり、こういうすぐーるで見れるよっていうのを、もっと日常化って言いますかね、みんなに知られるようにしたらいいかなって思います。

野木森 教育長

市の方聞いてらっしゃいましたね。はい、このすぐーるでお知らせするっていう制度はね、2年ぐらい前から始まって、まだ、まだまだ知られてないんだよね、きっとね。いいことやってるんだけど、もっと知ってもらわなきゃいけない。ありがとう、貴重な意見をね。次、順番に行こうか、●●さんから。

中学生B

今、この場は、絶対私たちの意見を発言できる場で、応援されているというか、子どもの意見が取り入れる場所だと思うんですけど、他にも岩倉市は、先ほど言った制服語り場があったりとか、未来寄合という岩倉市の未来について子どもたちで考える場所があるんですけど、どこに関しても、だいたい一定の人とか、限られた人になってしまうので、例えば学校全体に聞いてみるとか、もっと人を限るのではなくて、全ての子どもの意見が取り入れられたら、もっと意見ができる場ができたらいいなと、私は思います。

野木森 教育長

ありがとうございます。子ども未来寄合というチームスの中で子どもの意見の表明の場があります。そこには今100名ちょっとの5年生以上の子どもが集まっているんですけど、全員に聞いた方がいいって話ね。ありがとうございます。●●さんお願いします。

中学生C

僕も2人の意見と似てて、子どもを中心とした活動があったらいいと思います。例えば、夏祭りをそういうチームスとかで集まって、考えて、考えた上で実行できたらいいなと思います。

野木森 教育長

ありがとうございます。子どもの参加する権利を大事にしたいですね。●●さんある？

中学生D

ちょっと暗めな話にはなってしまうんですけど、自分の友達に、自分の意見とか、そういうのが言えない子がいるんですよ。怖いとか心配だとかいう気持ちが勝っちゃって。だいたい意見が聞かれる子は、ここにいる人たちとか、自分の意見がはっきりと言える方しかいないんですよ。そういう子どもたちとかに、自分の意見が言えるような環境を作るのが大切なんじゃないかなって。難しいのはわかるんですけど、それを思いました。

野木森 教育長

ありがとうございます。●●さん、あるかな。すごいしっかり、みんな考え持っているね。お願いします。

中学生E

先ほど話していた岩倉子ども条例についてなんですけど、岩倉子ども条例って、私も今日、聞いたことあるけど、どんなものなんだろうってのを今日初めて知って。大人だけしか知らないから、子どもも、そういうことについてちゃんと知っておいた方がいいんじゃないかなって思います。

野木森 教育長

はい、ありがとうございます。今の話を聞かれて、何かコメントいただけますか？

小林 よしひさ

いや、みんなしっかりしてますね。でもやはりまずは、いいことやってるんだから知ってもらうってことはすごく大事ななと思いましたし、あとその、「意見をどのように吸い上げるか」というか、やはり強い意見というのが目立つところはあるけれど、発言しづらかったりとか、そういった子たちが一体どのようにするかっていうのも、例えば、不登校の問題とかもあると思うんですが、これオランダ…どこでしたかちょっと忘れちゃったんですが、もうその概念すらなくて。学校に行かなくてもいいし、家でもいいし、あとはメタバースっていうんですか、インターネットの世界で通ってもいいしっていう、自分の好きな環境の中で、みんな同じ勉強していくっていうことができ。別に、その、こっちに行ってるから悪いとか、こっちに行ってるのが正しいとかは一切なく、どこかで何かを学んでいるっていう環境がある、でも、その自分たちが表現しやすい環境っていうのがあって。そこで勉強もできるし、発言もできるしっていう環境があるよっていうのは聞いたことがあって、そういったものも、ちょっと世界に目を向けると色んな政策条例やってるところがあると思うので、少しずつ取り入れていくっていうのも、日本全体でも必要なのかなって思いました、はい。

野木森 教育長

ありがとうございます。そうですね、世界にはね、日本より優れた制度があるかもしれないんで、その目を向けてみるといいっていうアドバイスでしたね。ちょっと今、大事なことだと思うんですけど、皆さんのように手を挙げてきてくれた人はすごくいい発言をしてくれる、本当にね。だけど、なかなか意見の言えない人たちをどう拾うかって大事なことだと思うので、ちょっとそれにヒントになるような質問をしてみたいんだけど、みんなが「自分の意見を言いやすいな」って感じるのはどんな場面でね、逆に、「言いにくいな」って感じるのはどんな場面なんだろうかってこと、ちょっと考えてみてもらえるかな。ど

うぞ、●●さん。

中学生D

そういう友達がいるからこそ、ちょっと自分の考えもまとまっているんですけど、その、こういう全員が、大勢の前で言うのはやっぱり怖いとか、意見が、ちょっと悪いこと言っていると、綺麗事ばかり言っちゃう気がするんですよ。だから、マンツーマン、1対1のできる環境がいいんじゃないかなって思いました。

野木森 教育長

ありがとうございます。大勢じゃなくて少人数で話し合うっていいことですね。はい、素晴らしい意見どうもありがとう。はい、●●さん。

中学生C

僕は、友達とかそういう話しやすい人たちがいる環境だと、すごく意見言いやすいんですけど、今日みたいに、本当に、来てくださった知らない方とか、本当にそういう場面、緊張したり、意見を話しにくいなって思いました。

野木森 教育長

そうですね。今日一番意見言いにくい環境の中で、よくこれだけ中学生喋ってるよね。ほら大きな拍手来たでしょ。●●さんも手を挙げてくれてますね。

中学生B

やっぱり、意見が言いにくい子とかは、人の目っていうのがちょっと怖さはあると思うんです。そういう場面で、今インターネット上で、匿名だとか、名前がない状態とか、人が見えない状態とかでも意見が出せる場があると、もっと、そういう子だと別にそれはどこでやってもいいじゃないですか。例えば、家で一人の状態でも、学校にいても。どこでもできるので、そういうのがあると発見しやすいのかなと思います。

野木森 教育長

SNS で表明するって言うてもあるよっていいことだね。どうぞ。

中学生A

やっぱり言いやすい場っていうのは、意見が肯定される場が一番言いやすくて。僕も思ったんですけど、一人とかだと大人数に対して言うと、否定されたり怖いじゃないですか。「それ違うじゃん」とか「それ違くない」とか言われたら。でも、家とかで、例えば子ども未来寄合についてメッセージを打っているときとかに、親とかが「そこダメだね、私もそう思うわ」とかみたいに共感してくれるっていうのが、やっぱり一番言いやすいので。だから、僕たちみたいなここに場に出れる人たちが、共感して、そういう意見を吸収していくっていうのが大事だと思いました。

野木森 教育長

●●さんは、大人になったら立派な子育て支援者になれるかもしれないね。ありがとうございます。●●さん何かありますか。

中学生E

私は小学生の時に言いやすいなって思ったことがあって。小学校に、心の相談室っていう一人の先生が悩み事について話してくれる場所があって、その先生がとっても優しくて、何でも話せるような存在だったので、そういうところがあるなっていうのはいいと思います。

野木森 教育長

ありがとうございます。みんな、岩倉市の宣伝すごくしてくれるね。岩倉市は学校に一人ずつ相談員がいます。今聞いてたら、やっぱり共感し合える仲間って大事ですね。よしお兄さん、その辺、先ほども語ってらっしゃったと思いますが、どうですか。

小林 よしひさ

そうですね、やはり意見したときに「そうだよね」って言ってもらえるっていうことが、その経験があると、物事を言いやすくなるんだなっていうのも改めて感じました。あと、その心の相談室みたいなところも、これまた海外の話になってしまうんですけども、学校の先生、担任以外に、それ専用の資格を持っている、国家資格を持っているっていう国もあって。そういった、勉強ということを教えるわけではなくて、質問したりとか、相談に乗ってくれる専門職みたいなものが、各クラスなのか学年にいるのかちょっとあれなんですけども、あって。日本でも、福島だったか多分どこかでもそういったものがあるというのを聞いたことがあるので、そういった大人を用意したりとか。やはり肯定という言葉がすごくキーワードになってくるんじゃないかなというふうに思いました。

野木森 教育長

ありがとうございます。肯定しあえるね、人と人とのつながりが大事だと思うんだよね。みんなどうでしょう。そういう人間関係が作れるような、家と学校以外の居場所って、岩倉市にはありそうですか？ある？大きくうなずいている、●●さん言ってくれる？

中学生D

岩倉に空手教室っていうのがあるじゃないですか。空手教室。自分も通ってて、5年生の頃から。そこで、別の学校の子とか、年齢が高い方とかとつながれることができ、そこから、自分の周りの人ってだいたい意見が似ちゃうことがあると思うんですけど、そこでつながった人とは、私とかの環境とは全く別の環境で育っているわけですから、自分の知らない意見を教えてくれるので、つながっている場所があると思いました。

野木森 教育長

ありがとう。空手教室ね、一つの居場所ですよ。他の人どうでしょう。はい、●●さん、どうぞ。

中学生C

僕も●●さんの意見に似てて、ダンス教室ってあるじゃないですか。僕は行ってないんですけど、友達にすごいダンス上手い奴いるんですよ。それで、ダンス教える時とかに、僕とは本当真逆の意見が出てくるんですよ。ダンス習っている人にしか分からない用語とかが出てきて、本当にダンス習ってて、そういう専門用語とかが出てて、違う意見が聞けるっていうのはすごくいいなと思いました。

野木森 教育長

はい、ありがとうございます。他にはいいですか。どうぞ、●●さん。

中学生E

私は岩倉ボランティアサークルに入って、そこで中学生から大学生まで色んな人と触れ合って、たまに、子ども会のイベントとかで小学生とかも触れ合えるんですけど、そこで、他の学年だったり、●●さんと同じで、色んな意見が聞ける場所として、とても安心します。

野木森 教育長

ありがとうございます。今挙げてくれたのは、どこも大抵異年齢で関わりができるっていう、そういう居場所ですよ。大事ですね。だいぶ時間がなくなってきちゃったんだけどね。これ、すごくみんなの意見聞いてると、岩倉市、ものすごくいいところです。けど、もっと子ども応援社会になりたいのね、岩倉市ね。そしたら最後に、一言ずつ、短めにまとめてほしいんだけど、順番じゃなくてもいいけど、思いついた人から、『もしあなたが岩倉市の市長だとしたら、子どものために何がやりたい？』ちょっと考えてください。じゃあ●●さんからどうぞ。

中学生D

子どものためにできることっていうのは、言ってたじゃないですか、心の相談室だとか、1対1だとか、共感してあげれる人になれるのがいいんじゃないかなって。こういう先生だとか、支援員じゃないけど、電話とかで相談聞いてあげる人だとか、そういうのを増やしたらいいんじゃないかなって思いました。

野木森 教育長

ありがとうございます。よしお兄さんみたいな人が増えたらいいよね。はい他どう？はい、●●さん。

中学生A

やっぱり、今回のよしお兄さんの話みたいに、今の中学生とか、小学生とか、ちっちゃい子もそうですけど、色んな、テレビに出てる人とかどんな人でもいいんですけど、『色んな人の経験を聞く会』っていうのがいっぱいあればいいんじゃないかと思いました。今回もそこで僕聞いていて、よしお兄さんの話と、さっきの引き出しを増やすとかで、そういう考え方もあるんだとか、そこに質問した「失敗してもその分それが経験だ」みたいな、違う人の異なった考え方も聞けるので、だからそういう経験を聞く場があればいいと僕は思いました。

野木森 教育長

はい、ありがとうございます。早速やってみますね。はい、他は？●●さんからいこうか。

中学生B

さっきの●●さんと似てるんですけど、悩み相談会みたいな、悩みがある人とかそういう子で集まって、「どんなことがあるの？」っていうのを実際に聞ける場があるといいなと思います。

野木森 教育長

はい、ありがとうございます。●●さん、どうぞ。

中学生C

まずは、よしお兄さんみたいな笑顔はもちろん、意見を聞く場がやっぱ大事だなんて思いました。

野木森 教育長

はい、ありがとうございます。●●さん、ありますか。

中学生E

私は、さっきから言っているように、色んな学年が交流できるようにしたいです。学校とかで、ペア交流とかあるんですけど、それはだいたい1学年としか交流できないので、もっと交流できる場を増やしたいと思います。

野木森 教育長

はい、素敵な意見ばかりで、みんな市長になれそうな気がしてきました。ちょっとそういうみんなに、5人の中学生に、最後よしお兄さんからエールを送っていただけますでしょうか？

小林 よしひさ

この時間、私の方が本当に勉強になったというか、色んな意見を聞いて、先ほど話した私の意見も肯定していただき、非常に気持ちのいい時間になりました。岩倉市、本当にいいところがたくさんあるなというのを感じましたし、子ども市長を作るというのはどうですかね？子ども市議会みたいなのを作ってやっていくみたいな。それもありがたくなって聞いてて思いました。素晴らしい意見ありがとうございました。

野木森 教育長

それでは、あっという間の45分が過ぎてしまいましたので、これで終わりたいと思いますが、本当に堂々とした意見を言ってくれた中学生に大きな拍手をお願いします。

司会者

本当に感慨深くて。ちなみに、私もこんな司会業をしておりますが、中学生や小学校の時には、授業中に手を挙げられない子でした。人前に出られないけれど、やっぱり寄り道とか色々すると、こんな未来もあるんだなっていうのもちょっと伝えたらなと思ってお話しさせていただきました。さあ、そしてパネリストの皆さん、どうもありがとうございました。野木森教育長もありがとうございました。では、ここで小林さんに花束の贈呈をさせていただきます。小林さん、ご起立いただきまして、前をお進みいただけますか。さあ、中学生を代表して、●●さんから花束の贈呈をさせていただきます。とても貴重なお時間をいただきましたね。では●●さんからの花束贈呈です。受け取ってください。

中学生A

ありがとうございました。（花束贈呈）

司会者

小林よしひささんでございました。どうぞ皆さん大きな拍手をお送りください。ありがとうございました。